

2

SDCs

100年続くまちづくり

舞鶴

山本 瑞樹 (3年) 平田 爽馬 (4年)
河本 泰尚 (3年) 松崎 伶音 (3年)
高岡 優羽 (3年) 井上 泰仁 (教員)

1. はじめに

昨今、地球温暖化を代表とする様々な環境問題について世間の関心が高まりつつあります。しかし、問題を認識していても規模が大きくなればなるほど実感が湧きにくく、問題意識が低いという現状があります。

こうした状況を打破するためには、若い年代への環境教育が不可欠と言え、より意識を高めるための施策やコンテンツ・システムが必要となるでしょう。

そこで私たちは、若い年代の中でも特に小学校高学年に焦点を当てた体験型環境学習システム「SDCs」を提案します。

2. システム概要

SDCsは、環境問題を**触って・見て・考える**ことによって環境に対する意識を高めることのできる教育システムです。

システム中では、まちがあとどのくらい持続するかの指標である持続バロメータを100年以上にすべく、まちづくりを行います。

2.1 触る・見る・考える

触る

物理ブロックの駒を使ってまちを実際に形成します。直感的な操作でまちを形成することができます。

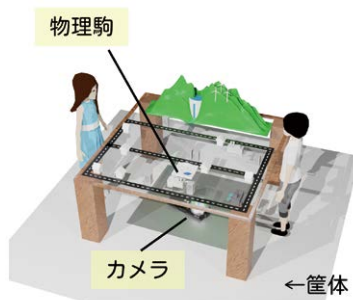


図1 筐体イメージ

見る

実際に配置された駒を元にまちを映像化し出力します。環境状態により周囲が変化するため、より理解度が向上します。

考える

ただまちを作っていくのではなく、システム上の指示に従って、自分で考えながらまちづくりを行うことで、直面している問題について考え、環境意識向上に繋げることができます。

2.2 システム使用の流れ

本システムは、何も無いところから**まちを作る**→**まちを発展させる**→**環境問題を解決する**という大きく分けて3つのステップによって構成されています。

実際に何も無いところからまちを発展させ、環境問題がどのようにして発生するのか、その過程でどのように問題を解決すべきか考えながら学ぶことができるようになっています。

3. 持続バロメータ

本システムでは、100年後にそのまちが持続しているかの指標を示す持続バロメータがあり、持続年数が0年になると、まちが減んでしまいます。

まちを100年以上持続させるために、発生した問題に取り組みます。

4. システム構成

本システムは、現実空間と仮想空間の両方を使い、より没入感のあるまちづくりを行うことができます。

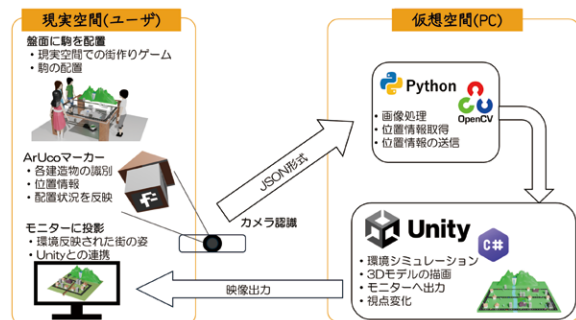


図2 システム構成

5. 終わりに

まちづくりを通して、発生する環境問題を解決することができる SDCs は環境問題への意識を高め、自ら考えながら行動する第一歩になることを願っています。